

飯田市観光振興ビジョン 推進ロードマップ



飯田市観光振興ビジョン推進ロードマップ

目 次

- 1 飯田市観光振興ビジョン推進ロードマップの策定について P 2
- 2 飯田市観光振興ビジョンの目指す姿 P 3
- 3 観光振興ビジョン推進ロードマップと各種計画との相関図 P 4
- 4 観光振興ビジョンの目指す姿に向けた第1期実行期間における「6つの重点項目」 P 5
- 5 重点項目別の取組 P 7
 - (1) 地域資源の保全・魅力向上
 - (2) 観光プログラム開発
 - (3) 受入態勢の整備
 - (4) 情報収集・発信
 - (5) 人材育成
 - (6) (1)～(5)をマネジメントする推進体制の構築

1 飯田市観光振興ビジョン推進ロードマップの策定について

(1) 趣旨

平成26年度末に発表した「飯田市観光振興ビジョン」において、「新交通網時代 地域のライフスタイルを保ちながら 感動の観光 共感の人的交流を実感できる 小さな世界都市飯田」をキャッチフレーズに、リニア中央新幹線開業までの長期的視野に立った飯田市の観光の目指すべき姿が示された。

しかし、観光産業は、社会経済情勢に大きく影響されやすく、昨今の旅行形態や旅行者のニーズも多種多様化しているため、先々の変化を予想しつくした長期計画の策定が困難な時代となっている。

このように先を見通すことの難しい時代にあっては、観光振興ビジョンで掲げた飯田市の目指す姿を実現するためには、市民、事業者、観光関係団体、行政等、観光事業に関連する多様な主体が観光振興ビジョンを共有し、これまで以上に連携・協働して実践していくことが大切となる。そのため観光振興ビジョンで体系づけている5つの柱の施策展開を具体化したロードマップ（行動計画）を作成して、この地域全体の観光振興に向けて取り組んでいくこととする。

(2) 計画期間

飯田市の次期総合計画に位置付けられている「いいだ未来デザイン2028」との整合を図るため、平成29年度を初年度とし、観光振興ビジョンで示している計画期間の平成39年度までの11年間とする。

(3) 基本的方向（第1期・第2期・第3期）

基本的方向についても、「いいだ未来デザイン2028」の実行期間とスパンを合わせ、第1期（4年間）、第2期（4年間）、第3期（最終年度の違いのため3年間）の単位で、具体的な取組と、その想定される実施主体を設定する。

また、各年度の取組は「地域経済活性化プログラム」との整合により実行することとし、実現状況を確認する達成目標を設定、PDCAサイクルを用いて評価・検証し、次の計画期間に反映する。

(4) 各種計画との関係性

各種計画との関係性は4ページの相関図のとおり

(5) 進行管理

観光振興ビジョン推進ロードマップに登載する事業は、様々な分野で地域づくりを実践している多様な主体及び㈱南信州観光公社や飯田観光協会をはじめとする観光関連団体などの方々が、リニア時代に向けた観光振興の取組について幅広い議論をするほか、その議論に基づき自らの実践に活かしていく。

2 飯田市観光振興ビジョンの目指す姿

飯田市ではリニア中央新幹線や三遠南信自動車道による新交通網時代を迎えることによって、様々な社会環境の変化が予想され、なかでも地域の人的交流を振興する「観光産業」による地域発展が期待されている。

東京から45分、名古屋から25分程度で都会の喧騒を離れ、3,000メートル級のアルプスを眺望する田園風景に囲まれた地方都市に訪れることができる時代が近づいてきている。大都市にはない、自然と調和した暮らしや人とのつながり、心の豊かさを実感できる環境等を活かして、一過性ではない、飯田独自の広く受け入れられる観光の可能性を目指したビジョンを確立する必要がある。

新しい交通網の誕生による大都市圏からの移動時間の短縮は、この地域にある既存の観光資源に新たな価値をもたらす可能性を持っている。

また、リニア中央新幹線による移動時間の短縮は、国が進める観光立国政策に伴って、飯田市を訪れる外国人旅行者の増加をもたらすことが期待される。このため、訪日外国人旅行者の受け入れができるような対応策を進めることが必要になる。

さらに、年齢、性別、国籍、また障がいの有無にとらわれない観光体験をサポートし、提供することにより、従来の観光地域づくりとは全く異なる、新しい観光の形を提案することにもつながるものと思われる。(新たな次世代型交流人口の創造)

これからの観光に期待されているのは、地域への経済的波及効果をもたらすことだけではない。観光の効果は、住民自身がこの地域にあるものを見直し、来訪者との交流の中で地域の新たな魅力と誇りを発見する機会を与えてくれることでもある。

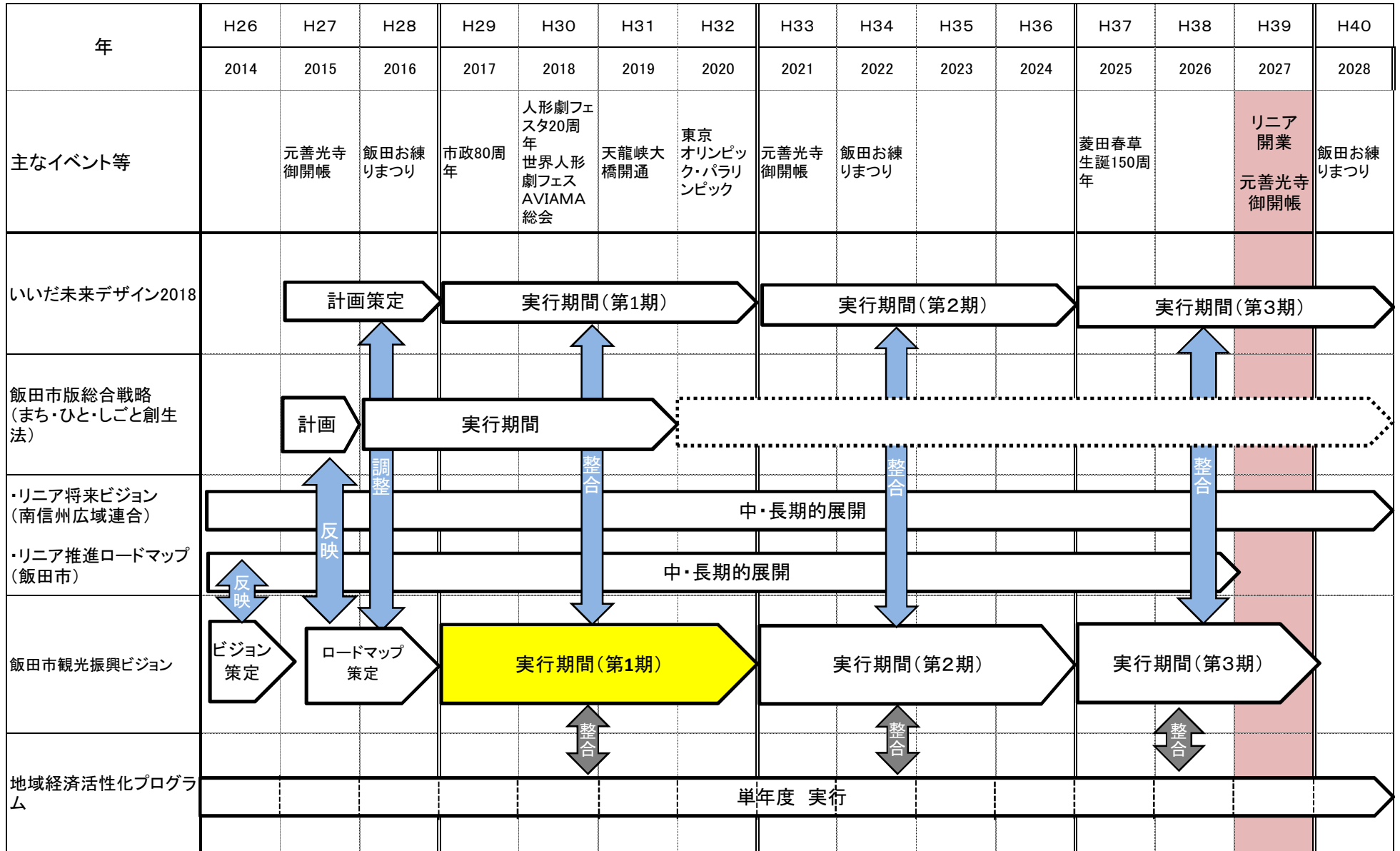
また、観光は、時代のニーズ、アイデアや技術革新により観光資源を新たに創造し、地域を活性化させる力を持っている。住民と来訪者が交流することで共感し合い、より品格のあるまちづくりに寄与することだろう。

新たな高速交通網時代を迎え、飯田市の観光事業が、五感を刺激するわくわく感のあるまちづくりに貢献し、若者を含め地域住民にとって夢と希望の持てるまちづくりの基幹として存在感のあるものになることを目指す。

飯田市観光の目指す姿

**新交通網時代 地域のライフスタイルを保ちながら
感動の観光 共感の人的交流を実感できる
小さな世界都市飯田**

3 観光振興ビジョン推進ロードマップと各種計画との相関図



4 観光振興ビジョンの目指す姿に向けた 第1期実行期間における「6つの重点項目」

観光振興ビジョンの5つの柱と、目指す姿への課題

5つの柱	施策
柱1 リニア中央新幹線や 三遠南信自動車道 による誘客戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者にわかりやすい誘客体制の整備 ・外国人旅行者の誘客促進と受入環境の整備 ・リニア駅を中心に多機能高付加価値の形成
柱2 観光地としての環境形成	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かで多様な自然や文化の保全・継承・活用と景観修景 ・南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークの活用 ・民俗芸能や暮らしに息づく行事の継承と地域活性化に向けた対外PRの充実化 ・既存の交通環境の整備と新たな交通形態の構築 ・観光地としての快適性の向上 ・少子高齢化・国際化・衛生環境に対応した観光客が安心安全にすごせるまちづくり
柱3 観光の魅力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田市の新たな魅力づくり ・観光・宿泊拠点のイメージづくり ・観光素材の商品化と地域主導型集客商品の提供 ・特産品・食の魅力向上と物産振興
柱4 観光情報の提供と 誘客の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・広域観光の推進 ・効果的なプロモーションによる誘客の促進 ・ニーズに応じた観光情報の発信と宣伝 ・既存情報の見直しと充実
柱5 人材の育成・コミュニ ケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・観光に対する市民の参加意識の醸成：人が観光資源 ・おもてなしの向上 ・観光の担い手の確保 ・観光事業者間の連携・協働と地域の異業種間交流の推進

目指す姿への課題

課題 1	<ul style="list-style-type: none"> ・自然やコミュニティに負荷をかけない観光の仕組みづくりや、地域の魅力向上、誇りや愛着、経済が循環する「観光地域づくり」の推進が必要
課題 2	<ul style="list-style-type: none"> ・観光消費額を増加するため、日帰り・通過型観光から宿泊・滞在型観光を増やす ・旅行者動向、地域の強みを基にした観光プログラムづくりが必要 ・インバウンド観光に特化した観光プログラムのメニューが不十分
課題 3	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人旅行者の受入れ態勢が不十分（多言語パンフレット・ホームページ、Wi-Fi環境、通訳ガイド等）
課題 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットとする旅行者に合わせた効果的な情報発信が必要 ・庁内関係部署等と連携した情報発信が必要
課題 5	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の観光への参画機会の増加と、地域資源の更なる認知度向上が必要 ・ガイド等の若い世代の担い手が必要
課題 6	<ul style="list-style-type: none"> ・南信州圏域の広域観光の舵取り役が必要 ・旅行者動向等の各種データの継続的な調査分析と、マーケティング手法に基づく観光の推進が必要

第1期実行期間における「6つの重点項目」と具体的な取組

第1期実行期間（H29～H32）

重点項目 1
地域資源の保全・魅力向上

豊かな観光資源の保全と活用により、地域固有の魅力を磨き上げ、この地域に人を惹きつけるような観光地域づくりを推進する。

- 南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークエリアの自然や地元コミュニティに負荷の少ない観光の仕組みづくり
(2次交通体制に向けた調整、アウトドアガイド・ジオパークガイド・秋葉街道の案内人等の活用)
- 中央アルプスエリアの自然保全に向けた検討と試行
- 大平宿の保全に向けた「大平宿暮らしの案内人」の養成と活用

重点項目 2
観光プログラム開発

地域に根差した観光資源を素材にしなが、多様化した旅行形態や旅行者ニーズに柔軟に対応できる観光プログラムづくりを行う。地域の誇りと生きざまに接する「ほんもの体験」を提供し、体験型観光を推進する。

- 小さな世界都市飯田を目指したインバウンド観光の推進
- まちなか観光の推進に向けたまちあるきプログラムの開発
- 天龍峡温泉交流館を中心拠点とした天龍峡及び周辺一帯の周遊滞在型観光の創造
- 南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークエリアの県内市町村連携による南アルプス山岳高原観光の推進
- 異分野や他産業との連携による旅行者ニーズに柔軟に対応した観光プログラムの開発

重点項目 3
受入れ態勢の整備

リニア等による移動時間短縮により、国内だけでなく訪日外国人旅行者の増加が期待されることから、リニア駅を伊那路広域観光の魅力発信拠点とした、旅行者の受入れ態勢の整備を行う。

- 外国人旅行者の受入れ態勢づくり
- 市内観光施設及び観光案内所のWi-Fi 環境整備
- 天龍峡の観光施設の整備
- 地域活性化に向けた「道の駅遠山郷」の整備

重点項目 4
情報収集・発信

ICT(情報通信技術)等を活用した旅行者動向や口コミ情報のデータ収集・調査と分析を進め、効果的な観光プロモーション展開を図る。

- ターゲットにあった多面的でタイムリーな情報発信
- 「信州DC」による情報発信強化や、品川等首都圏の情報発信拠点の利活用
- 市民向けに地元観光地やお土産情報の周知、地元食材を利用した食事処の情報収集と発信
- ICT(情報通信技術)等を活用した旅行者動向や口コミ情報のデータ収集・調査と分析

重点項目 5
人材育成

市民や観光事業者を対象に、よりよい地域づくりのための観光のなすべき役割などを共有し、地域観光の担い手としての育成や、おもてなしの心の醸成を図っていく。

- 小中高の学校と連携した観光次世代教育
- 市民のおもてなしの心の醸成と観光体験の場づくり
- 観光事業者、ガイド、地元案内人、観光コーディネーター、農家民泊受入れ農家等のスキルアップ研修会(外国人旅行者対応を含む)の実施
- 天龍峡ご案内人の育成

重点項目 1～5を 総合的にマネジメント

重点項目 6
推進体制の構築

南信州圏域の広域的な観光地域づくりに向けた地域連携型DMOの確立と持続可能な運営

課題を解決するための重点項目

5 重点項目別の取組

具体的な取組と想定される実施主体、達成目標に向けた手順（第1期4年間）、第1期の達成目標

重点項目（1）	地域資源の保全・魅力向上
柱と施策	柱2：・豊かで多様な自然や文化の保全・継承・活用と景観修景 ・南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークの活用 柱3：・飯田市の新たな魅力づくり 柱5：・観光の担い手の確保
粋 (ビジョン より 抜 具体的イメージ)	○南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークエリアを中心とした自然環境の保全と伝統文化の継承 ○地元コミュニティや環境に負荷の少ない観光の仕組みづくり、考え方の整理 ○自然景観に配慮した景観条例等必要な規制の検討、必要により入場制限や立入禁止を行い保全に配慮 ○地域資源の保存・継承・活用活動への支援

（1）具体的な取組と想定される実施主体

- 南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークエリアの自然や地元コミュニティに負荷の少ない観光の仕組みづくり
 - ・2次交通体制の運用に向けた地元関係団体との調整
 - ・アウトドアガイド（山岳・里山ガイド等）、ジオパークガイド、秋葉街道の案内人等の活用

実施主体：市民（地域住民団体）、民間交通事業者、観光事業者、遠山郷観光協会、(株)上村振興公社、(一財)南信濃振興公社、飯田市等

- 中央アルプスエリアの自然保全に向けた検討と試行
 - ・安平路山・摺古木山固有の自然環境を保全するため、登山道の整備や利用方法の検討、アウトドアガイドの活用
 - ・風越山の関係団体との連携による保全活動への支援

実施主体：市民（地域住民団体）、民間交通事業者、観光事業者、飯田観光協会、(株)南信州観光公社、飯田市等

- 大平宿の保全に向けた「大平宿暮らしの案内人」の養成と活用
 - ・かつての大平宿の暮らしを語り、また生活原体験のインストラクターとなる「大平宿暮らしの案内人」の養成と活用（大平宿滞在の付加価値づくりと大平宿の理解者拡大）

実施主体：市民（地域住民団体）、(株)南信州観光公社、飯田市等

(2) 達成目標に向けた手順 (第1期4年間)

	<HOP>	<STEP>	<JUMP>
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスエリアの登山者や旅行者の動向把握 ・自然や地元コミュニティに負荷をかけている観光利用の実態把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスの2次交通体制を関係者で検討・調整 ・自然や地元コミュニティに負荷をかけない観光利用方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジオガイド、山岳ガイド等の活用体制づくり ・自然や地元コミュニティに負荷をかけない受入れに向けた関係団体等との調整
	<ul style="list-style-type: none"> ・中央アルプスエリアの登山者や旅行者の動向把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央アルプスの登山道の整備や、駐車場の位置などの登山者利用方法の検討、関係団体等の協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央アルプスの自然保全に向けた整備や登山者利用方法の試行、里山ガイドの活用促進
	<ul style="list-style-type: none"> ・大平宿暮らしの案内人の養成 	<ul style="list-style-type: none"> ・大平宿暮らしの案内人の活用体制の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・大平宿暮らしの案内人の活用

(3) 第1期の達成目標

指標名	現状	目標 (H32)	備考
自然や地元コミュニティに負荷の少ない観光の仕組みづくり、交通体制やガイド・地元案内人活用の体制づくり		南アルプス、中央アルプス、大平宿で試行する	

重点項目(2)	観光プログラム開発
柱と施策	柱1：・来訪者にわかりやすい誘客体制の整備 ・外国人旅行者の誘客促進と受入環境の整備 柱3：・飯田市の新たな魅力づくり ・観光素材の商品化と地域主導型集客商品の提供 柱4：・広域観光の推進
より抜粋 具体的イメージ (ビジョン)	○外国人ターゲットを整理・検証した適切な対応法の確立 ○健康志向、温泉、トレッキング、まち歩き、サイクリング等のプランの設定 ○気楽に訪問できることを売りにした「日帰りツアー」、広域での周遊型商品づくり ○人形劇の魅力を発信した誘客への取組

(1) 具体的な取組と想定される実施主体

- 小さな世界都市飯田を目指したインバウンド観光の推進
 - ・外国人旅行者に適切に対応した体験型観光プログラムの開発と農家民泊の普及
 - ・体験型観光の評価調査を参考にしたインバウンド戦略の検討（ターゲット国の研究等）

実施主体：飯田観光協会、(株)南信州観光公社、農家民泊受入れ農家、飯田市等

- まちなか観光の推進に向けたまち歩きプログラムの開発
 - ・中心市街地の5つの拠点（りんご並木、並木通りと中央公園がつくり出す緑のネットワーク、並木通りと中央公園が交差する周辺、飯田駅周辺、橋北地区の歴史的街並み）の活性化に向けた関係団体等との連携による取組

実施主体：中心市街地活性化協会、飯田中心市街地商店街連合会、りんご並木まちづくりネットワーク、NPO いいだ応援ネットイデア、飯田観光協会、飯田市等

- 天龍峡温泉交流館を中心拠点とした天龍峡及び周辺一帯の周遊滞在型観光の創造
 - ・天龍峡大橋（添架歩廊）と、天龍峡IC休憩施設周辺や姑射橋周辺を遊歩道で結んだ自然景観・歴史文化・食・温泉等を周遊体験するコースづくり
 - ・天龍峡温泉交流館を癒しと交流の中心拠点とした天龍峡及びその周辺一帯の立寄り施設等との協力体制の構築

実施主体：市民（地域住民団体）、(株)農耕百花、天龍峡温泉観光協会、天龍峡観光案内所、天龍峡ご案内人の会、飯田観光協会、観光事業者、飯田市等

- 南アルプスユネスコエコパーク・ジオパークエリアの県内市町村連携による南アルプス山岳高原観光の推進
 - ・ミニ登山・トレッキングによる観光誘客の推進に向けた既存コースの調査と検証、登山道・遊歩道・案内看板の整備、新しいコースの造成、トレッキングツアー等の実施

実施主体：遠山郷観光協会、(株)上村振興公社、(一財)南信濃振興公社、観光事業者、市民（地域住民団体）、飯田市等

- 異分野や他産業との連携による旅行者ニーズに柔軟に対応した観光プログラムの開発

- ・世界人形劇フェスティバル、人形劇フェスタ、やまびこマーチ等の飯田ならではの催しをいかした観光プログラムの開発
- ・大河ドラマ「おんな城主直虎」ゆかりの地を巡るまちなか散策ツアーの実施と継続
- ・桜守の旅、和菓子探訪ツアー等の利用拡大に向けた事業者との連携
- ・ツアー・オブ・ジャパン開催地のいなべ・美濃・飯田の中部三県周遊観戦ツアーの実施
- ・個人や団体、ペット同伴等の多様な旅行形態に対応した観光プログラムの開発
- ・都市部の住民と地元住民との交流プログラムの拡充

実施主体：市民（地域住民団体）、(株)南信州観光公社、飯田観光協会、観光事業者等

（２）達成目標に向けた手順（第１期４年間）

	<HOP>	<STEP>	<JUMP>
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人旅行者の評価調査を参考にしたインバウンド戦略の検討、ターゲット国の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人旅行者に対応する体験型観光プログラムの開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人旅行者の評価に基づいたプログラムの改善 ・農家民泊の普及に向けた受入れ体制の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のまち歩きプログラムのニーズや課題等の現状把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体等との連携による観光プログラムの更なる魅力づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社等と連携したまち歩きプログラムの試行・評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・天龍峡温泉交流館での地元産食材の食事の提供 ・天龍峡大橋を利用した新たな散策コースの設定 ・周辺観光施設との連携による周遊コースづくりと運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・天龍峡温泉交流館での滞在型集客イベントの実施 ・天龍峡大橋を新たな魅力としたご案内人による遊歩道散策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・温泉と食堂利用者のニーズ分析とメニューの開発 ・天龍峡案内人による案内内容の充実 ・周遊コース利用者の評価分析とコースの改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスエコ・ジオパークエリアの既存のトレッキングコースの現状調査と利用者動向の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスエコ・ジオパークエリアの新しいコースの開発 ・コースの魅力づくりに向けた外部専門家からの助言 	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプスエコ・ジオパークエリアの既存コースの整備や看板設置等 ・トレッキングツアーの実施とガイドの活用
	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットに合わせ、飯田ならではの催し等をいかしたツアーづくり ・交流プログラムの継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社等と連携した飯田ならではのツアー実施・評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な旅行形態に合わせたツアーづくりと実施・評価

（３）第１期の達成目標

指標名	現状	目標（H32）	備考
①観光プログラムの延べ利用者数	43,400人	46,000人	①(株)南信州観光公社の実績
②外国人旅行者の延べ宿泊者数	1,000人	2,000人	②(株)南信州観光公社の登録受入れ農家・市内宿泊施設の実績
③天龍峡の延べ旅行者数	260,000人	271,000人	③⑦長野県観光地利用者統計調査による実績
④天龍峡温泉交流館延べ利用者数	8,000人	40,000人	④天龍峡温泉交流館利用者数
⑤天龍峡ご案内人延べ利用者数	5,500人	8,000人	⑤天龍峡ご案内人の利用者数
⑥ミニ登山・トレッキングコース数	6コース	8コース	⑥利用可能なコースの数
⑦遠山郷の延べ旅行者数	242,500人	253,000人	

重点項目(3) 受入れ態勢の整備	
柱と施策	柱1：・外国人旅行者の誘客促進と受入れ環境の整備 柱2：・観光地としての快適性の向上 柱3：・観光・宿泊拠点のイメージづくり
具体的イメージより（抜粋）	○わかりやすい多言語パンフレット・看板表記の推進 ○少なくとも英語の通じる宿泊施設を目指した取組の推進 ○無料 Wi-Fi 等の整備による快適な情報空間づくり ○景観に配慮した統一イメージやデザインの看板設置の推進 ○居心地の良い環境整備

(1) 具体的な取組と想定される実施主体

- 外国人旅行者の受入れ態勢づくり
 - ・国際交流推進団体等との連携による観光パンフレットやホームページの多言語化
 - ・英語対応可能な観光施設づくりへの支援（必要な箇所への英語表記の掲示等）

実施主体：飯田観光協会、観光事業者、飯田市等

- 市内観光施設及び観光案内所の Wi-Fi 環境整備
 - ・市内観光事業者が実施する整備への支援
 - ・庁内横断プロジェクトによる検討と実施

実施主体：国・県、観光事業者、飯田観光協会、天龍峡温泉観光協会、飯田市等

- 天龍峡の観光施設の整備
 - ・天龍峡温泉交流館の Wi-Fi 環境整備
 - ・賑わいづくりに向けた姑射橋広場や太田下広場の整備
 - ・わかりやすい統一案内看板の整備

実施主体：(株)農耕百花、天龍峡温泉観光協会、天龍峡観光案内所、飯田市等

- 地域活性化に向けた「道の駅遠山郷」の整備
 - ・道の駅遠山郷の整備計画の立案

実施主体：(一財)南信濃振興公社、遠山郷8団体連絡会議、市民（地域住民団体）、和歌山大学、飯田市等
- ・道の駅遠山郷の整備の実施

実施主体：(一財)南信濃振興公社、飯田市等

(2) 達成目標に向けた手順 (第1期4年間)

	<HOP>	<STEP>	<JUMP>
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「南信州ナビ」の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な観光パンフレットの多言語化 ・外国人旅行者受入れ可能な宿泊施設のリスト化 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光施設での英語表記等への支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内横断PJによる整備方針の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・Wi-Fi環境を市内観光拠点に整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内観光事業者の整備への支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・天龍峡温泉交流館のWi-Fi環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・姑射橋広場や太田下広場の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・天龍峡エリアの周遊コースの統一看板整備
	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅遠山郷の整備計画の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅遠山郷の整備計画の立案及び地域との合意形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅遠山郷の整備の実施

(3) 第1期の達成目標

指標名	現状	目標 (H32)	備考
◇外国人旅行者の受入れ態勢が整う (「南信州ナビ」や観光パンフレットの多言語化、Wi-Fi環境整備)	観光総合パンフレットは3カ国語対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「南信州ナビ」の7カ国語化 (英、台、中、韓、独、タイ、仏) ・主要な観光パンフレットの4カ国語化 (英、台、中、韓) ・市内観光案内所にWi-Fi環境が整備される 	
◇天龍峡の旅行者数	260,000人	271,000人	再掲
◇道の駅遠山郷の利用者数	104,200人	109,000人	再掲

重点項目(4)	情報収集・発信
柱と施策	柱1：・外国人旅行者の誘客促進と受入環境の整備 柱3：・特産品・食の魅力向上と物産振興 柱4：・広域観光の推進 ・効果的なプロモーションによる誘客の促進 ・ニーズに応じた観光情報の発信と宣伝 ・既存情報の見直しと充実 柱5：・観光に対する市民の参加意識の醸成：人が観光資源
(具体的イメージより抜粋)	○ホームページ「南信州ナビ」の充実（リアルタイムな情報提供、来訪者や住民のお勧め情報、ガイドブックには載らない旬の話題） ○ガイドブックやパンフレットへの入念な情報掲載 ○海外向けの観光プロモーション活動による観光情報の発信 ○広域の連携団体のネットワークを利用した情報共有や情報発信体制の構築 ○市民が来訪者を連れて行く際のお勧め地元観光地やお土産情報の周知 ○地元食材等を利用した料理が食べられる食事処の情報発信 ○情報通信技術（ICT）による観光情報の提供

(1) 具体的な取組と想定される実施主体

- ターゲットにあった多面的でタイムリーな情報発信
 - ・ 「南信州ナビ」や各観光案内所のホームページ・フェイスブックによる情報発信
 - ・ 観光パンフレットの情報の充実
 - ・ 大手観光情報誌への掲載による情報発信
 - ・ 国内外の旅行者に向けた観光案内アプリの開発
 - ・ AVIAMA 総会、東京オリ・パラリンピックで来訪する外国人旅行者への情報発信

実施主体：飯田観光協会、南信州広域連合、市民（地域住民団体）、飯田市等

- 「信州DC（destinationキャンペーン）」による情報発信強化や、品川等首都圏の情報発信拠点の利活用
 - ・ 県や南信州圏域の連携による誘客宣伝
 - ・ 飯田のファンを増やすため、住民のふれあい相互交流による情報発信

実施主体：県、南信州広域連合、飯田観光協会、観光事業者、市民（地域住民団体）、飯田市等

- 市民向けに地元観光地やお土産情報の周知、地元食材を利用した食事処の情報収集と発信

実施主体：市民（地域住民団体）、飯田観光協会、観光事業者、飯田商工会議所、南信州・飯田産業センター、飯田市等

- ICT（情報通信技術）等を活用した旅行者動向や口コミ情報のデータ収集・調査と分析

- ・ 効果的なマーケティングやプロモーションに向けたデータ収集・調査と分析

実施主体：飯田観光協会、(株)南信州観光公社、飯田市等

(2) 達成目標に向けた手順（第1期4年間）

	<HOP>	<STEP>	<JUMP>
取 組 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大手観光情報誌への掲載 ・ ホームページや観光パンフレットの情報充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光案内アプリの開発 ・ お土産や食事処等のインバウンド観光向けの発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国人旅行者へのプロモーション戦略に基づいた情報発信
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「信州DC」への対応 ・ 交流による情報発信 ・ 情報発信拠点でのPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「信州DC」アフターキャンペーンへの対応 ・ 交流による情報発信継続 ・ 情報発信拠点の活用の評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「信州DC」終了後の継続した誘客宣伝 ・ 情報発信拠点活用の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 庁内関係部局との連携による市民向け観光情報周知方法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元観光地やお土産情報等の収集と周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民向けの観光情報の収集と周知方法の評価
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTによる旅行者動向のデータ収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTによる旅行者動向のデータ分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・ データ分析に基づくマーケティングやプロモーション戦略の検討

(3) 第1期の達成目標

指標名	現状	目標（H32）	備考
◇ホームページ「南信州ナビ」のアクセス件数	315万ページビュー/年間	328万ページビュー/年間	
◇南信州ナビのフェイスブックフォロワーの人数	550人	1,100人	

重点項目(5) 人材育成	
柱と施策	柱5：・観光に対する市民の参加意識の醸成：人が観光資源 ・おもてなしの向上 ・観光の担い手の確保
(ビジョン) 具体的イメージより抜粋)	○小中学校や公民館等で行う「ふるさと学習」や「地域学習」の推進 ○学校教育との連携による観光の周知、次代の人材育成 ○市民に可視化した観光で理解を推進（まちあるき、観光資源の体験等） ○市民の能力や地域活動をいかした地域観光ガイド、山岳の案内の養成 ○観光事業者（プロ）としてのスキルアップの機会づくり ○事業者がまちの歴史等を学び、観光客に伝えることができるようにする学習会

(1) 具体的な取組と想定される実施主体

- 小中高の学校と連携した観光次世代教育
 - ・ふるさと学習や地域学習、観光資源の体験学習の導入
実施主体：市民（地域住民団体）、飯田市等

- 市民のおもてなしの心の醸成と観光体験の場づくり
 - ・継続的な研修会、ガイドによるまち歩き、観光プログラム体験会等の実施
実施主体：(株)南信州観光公社、飯田観光協会、観光事業者、市民（地域住民団体）、飯田市等

- 観光事業者、ガイド、地元案内人、観光コーディネーター、農家民泊受入れ農家等のスキルアップ研修会（外国人旅行者対応を含む）の実施
実施主体：飯田観光協会、(株)南信州観光公社、市民（地域住民団体）、飯田市

- 天龍峡ご案内人の育成
 - ・天龍峡大橋エリアを含めた地域資源の研修の実施
実施主体：天龍峡ご案内人の会、天龍峡温泉観光協会、天龍峡観光案内所、飯田市等

(2) 達成目標に向けた手順（第1期4年間）

	<HOP>	<STEP>	<JUMP>
取組内容	・小中高の学校との連携方法の検討	・小中高の学校でのふるさと学習、観光学習の試行	・小中高の学校との連携体制の試行
	・市民の観光体験研修等の試行	・市民の観光体験研修等の継続実施	・市民の観光学習の自主的な実施への支援
	・観光事業者等対象の地域資源を学ぶ研修会実施	・観光事業者対象のスキルアップ研修会実施	・観光事業者等対象のおもてなし向上研修会実施
	・天龍峡ご案内人の募集	・天龍峡ご案内人による天龍峡大橋エリアの観光資源の研修	・天龍峡ご案内人による天龍峡周辺エリア一帯の観光資源の研修

(3) 第1期の達成目標

指標名	現状	目標 (H32)	備考
◇市民対象のツアーや講座等への参加人数		延べ 200 人	(株)南信州観光公社、飯田観光協会、飯田市が主催する講座等への参加人数
◇ガイド等のスキルアップ研修会の実施		2 回/年間	
◇天龍峡ご案内人の育成	6 人	10 人	天龍峡ご案内人登録者数

(1) 現状と課題

- ・ 全国各地で、観光協会、旅行会社、コンベンションビューロー、観光行政等が各々に連絡調整をとりながら観光事業を進めているが、観光庁では、観光地域づくりを進めるために、地域全体の観光をマネジメントする日本版DMO (Destination Management Organization) の形成を推進している。
- ・ DMOには、観光産業に加えて、地域づくりの視点も必要となるため、ビジネスの知見の他、地域関係者との協働や広域的な複数地域の連携をつくりだす力も求められる。
- ・ 観光先進国では、DMOが確立し、地域観光のマネジメントを担い、風土に根差した個性ある地域の創造とブランド化を進め、観光誘客を進めている。

(2) 基本的な考え方

観光地経営の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、関係者と協働した事業運営、調整機能や責任を持った組織体とする。

① DMO組織体制の要件

- ・ 最終責任者（代表）が、明確であること
- ・ 法人格を有していること（安定的な資金や責任者の獲得のため）
- ・ マーケティング戦略を立てる専門人材がいること
- ・ 商品づくり、プロモーション等が担える専門人材がいること
- ・ 各事業等の実務を担う人材がいること

② DMOに求められる機能

ア 戦略策定機能

- ・ 観光関連各種データ等の継続的な収集と分析
(環境分析、SWOT分析、ポジショニング、ニーズ調査、動向調査等)
- ・ 客観的なデータ等に基づく明確なコンセプトに基づいた戦略の策定
- ・ PDCAサイクルの確立

イ 多様な関係者との連絡調整や合意形成機能

- ・ 地域とのコミュニケーション
- ・ 観光関連事業者などの多様な関係者間での戦略等の共有

ウ 観光プログラムづくり、受入れ態勢づくり、情報発信

- ・ サービスの維持、向上、評価する仕組みや体制の構築
- ・ プロモーション戦略に基づく情報発信
- ・ 各観光協会や地域DMOとの連携、各種情報の共有、研修等を実施

(3) 具体的な取組と想定される実施主体

- 株式会社南信州観光公社の機能強化を行い、南信州版DMOを構築する。

実施主体：(株)南信州観光公社、飯田観光協会、南信州広域連合、観光関連団体、下伊那13町村、飯田市等

◆ 検討時参考資料 ◆

1 観光地域としての在り方について

(1) 「観光地域づくり」という視点

観光イベントや、顧客ターゲットを絞らない総花的なプロモーションに頼る観光では、その時々での流行（ブーム）に少なからず地域が翻弄されてしまうため、観光庁ではこれまでの観光の概念から脱却するための方向性を「観光地域づくり」と表現して、観光振興を進めている。

本来の「観光の在り方」は、対象となる地域の普遍的な価値や魅力を提供しながら、それに呼応する旅行者の共感や満足感を高め、地域と旅行者がよりよい関係をつくることにより、更に地域の魅力が増幅され、訪れたい地域にしていくものである。このように、時間の経過とともに地域が磨かれていく、観光をとおした地域づくりの実現が求められるようになっている。

この「観光地域づくり」の根底にあるのは「住んでよいところが、訪れてもよい」、もしくは「訪れて魅力的なまちは、住んでも魅力的」と表される観光の考え方であり、飯田市においても観光による豊かな地域づくりを目指すために「飯田型ツーリズム」として推進してきた。飯田市観光振興ビジョンにおいても、「めざす姿」として掲げ、観光地域づくりを進めていく。

【参考】

「観光地域づくりの意味、目指す観光の姿」

観光庁ホームページ『人育てから始める観光地域づくり』より一部抜粋

○ 国際競争が激化していく厳しい時代の中で、今こそ原点に立ち戻り、地域の誇りに来訪者が触れることができるような観光のあり方が求められています。それは、地域に息づく暮らし、自然、歴史、文化等を最大限に活用し、住まう人にとっても、訪れる人にとっても心地よい空間、また訪れたいと思う地域づくりを進めていくことによって実現されるものです。このことは、観光立国の基本理念「住んでよし、訪れてよしの国づくり」としても謳われています。

○ 「観光地域づくり」とは、この「住んでよし、訪れてよし」を実現していくための活動のことで、そのことによって、住まう人たちの人間性を豊かにし、経済力を含めた地域力を高めていくと同時に、訪れる人たちの精神的充足を養うことを目指すものです。

具体的には、幅広い関係者が、多様な地域資源を活用しながら、観光を軸とした地域づくりを行っていくことで、言い換えると、地域の人々と来訪者が触れ合う場を提供し、地域の応援団を増やしていく取組とも言えます。

観光地域づくりを進めていく上では、これまでの観光の概念から脱却し、観光地域づくりという考え方へ、まずは自分自身から、徐々に地域に住まう人たちを巻き込みながら、意識を転換していくことが大切です。

(2) なぜ、観光地域づくりが必要か

ア 旅行者が求めるもの

旅先のその土地でしか味わえない食や風景、自然環境や生活文化を活かした体験、住民との触れ合いなどを求める国内外の旅行者が増えており、「その地域だからこそ、その地域の生活感」が求められるようになってきた。旅行者が訪れたい地域には、自然環境や歴史文化に基づく地域の独自性、長年の風土によって培われた生活スタイルなどの地域ならではの暮らしがあり、地域に誇りと愛着を持って暮らす住民の姿がある。こうした地域DNA（*1）は、他の地域にはない差別化された価値であり、旅行者が求める魅力となっている。

（*1:「地域DNA」とは、地域の風土、歴史により育まれた地域アイデンティティ、地域の本質的な価値や個性。地域のブランド化にもつながる）

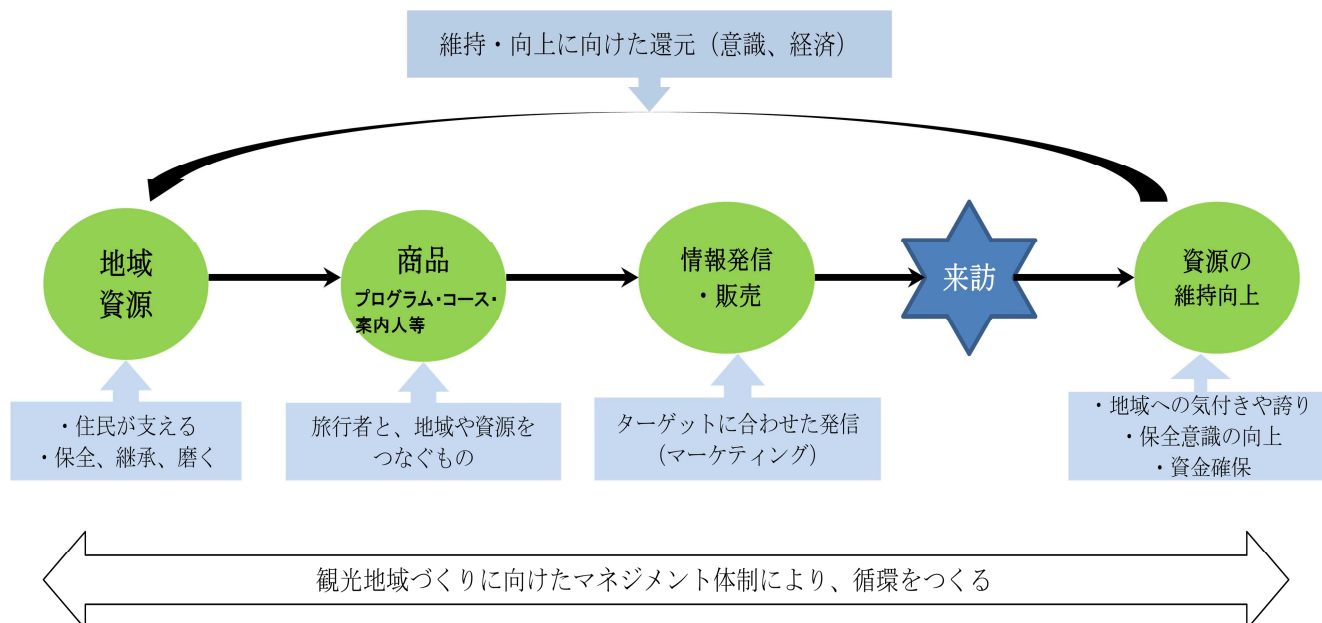
イ みんなで創りあげる観光地域づくり

このように地域の誇りに旅行者が触れられるような観光の在り方が求められているのと同時に、住民にとっては、旅行者との触れ合いを通して、自分達の地域らしさを再認識することで、より愛着を深めた地域づくりが求められる。このような地域の「光を観る」観光は、訪れる人に精神的充足を提供し、地域ファンをつくとともに、豊かで住みやすい地域を育てることにつながっていく。

観光資源となるのが、地域や暮らしそのものであるため、観光関連事業者だけではなく、幅広い産業や地域団体、個人など、多様なメンバーの参画が必要となる。また、幅広い関係者が観光を軸とした地域づくりを行うことにより、地域のイメージや発信力も高まっていく。

「観光地域づくり」とは

- ・①住民が暮らしやすく、②資源がよりよく保たれ、③経済的にも維持できる地域社会を、
「観光（外から人が来る）という手段」を使って実現すること。
- ・観光産業と地域づくりを含めた観光振興により、訪れたいと思える魅力ある地域をつくる。



(3) 戦略策定に向けた調査分析でわかること

- 来訪者属性
 - どこから、どんな人が、どのくらい来ているか？
 - ⇒ 発地エリアと、来訪者層が明確になり、重点的にプロモーションすべきエリアとターゲットが明確になる
- 交通手段
 - 何を利用しているか
 - ⇒ 2次交通整備、来訪者の動線づくり、移動に関する情報提供の方法がわかる
- 季節、曜日
 - 季節や曜日の偏りを知る
 - ⇒ 1年や1週間を通して平均的に来訪をさせるため、休眠資源を活用して平準化を図る
- 旅程
 - 日帰り、宿泊、その属性（年代、性別、グループ等）
 - ⇒ ターゲットが求めるプランをつくり、周遊コースや、宿以外でお金を落とす場（食事処等）の開発につなげる。
- 滞在場所と滞在時間
 - どこに、どのくらい滞在しているか
 - ⇒ 滞在時間をアップさせる仕掛けづくり
- 周辺観光エリアの相関関係
 - どこのエリアに、どのくらいの人が流入出しているか
 - ⇒ 組み合わせるエリアが明確になる、エリアを線でつなぎ面で捉えたモデルコースの設定で旅程の長期化策につなげる。周辺観光エリアからの旅行者の流入や、飯田市からの流出状況を把握することで、連携すべき観光エリアが明確になる
- 周遊に関する分析
 - どこを経由して、どのように滞在しているか
 - ⇒ 「来訪者が多いが、滞在時間が短い」→どのように滞在させるかが課題
「来訪者は少ないが、滞在時間は長い」→どのように集客させるかが課題

(4) 「南信州観光プランづくりの要件5ヶ条」について

質のよい旅を提供し、よりよい地域づくりを進めるため、飯田観光協会の「観光プランづくりプロジェクト」に参加した市民や観光協会会員の皆さん（60余名が登録）が、平成26年に創りあげたプランづくりのルール。

旅行者も地域に暮らす自分達も豊かになれるプランにしたい、旅行者の気持ちになって考える、この地域ならではの体験をしてもらいたい、また、受け入れる人たちもやりがいや満足感、そして誇りを感じられるものでありたい、このような参加者の思いからつくられたもの。

<南信州観光プランづくりの要件 5ヶ条>

その1 地域に由来すること

- ・ 歴史、風土に由来するストーリーがある
- ・ 地元でしか作れない、地元ならではの内容である

その2 出会い直す

- ・ 身近なモノや人の掘り起こし

その3 食と体験

- ・ 「食」にこだわってみる
- ・ 5感をフルに使った心に残る体験を

その4 ゆったりと過ごす

- ・ 時間に追われない
- ・ 集中時間とゆったり感のメリハリがある

その5 やりがいがある

- ・ 受入れ側には生きがいや対価、旅行者には満足感が受け取れる

(5) プランづくりから実施評価までの取組の例

- ① 地域資源の洗い出し
- ② 地域資源の選択と組み合わせ
- ③ ターゲット旅行者設定
- ④ 旅行中の過ごし方想定（顧客になってみる）
- ⑤ プランの位置付け整理
(旅の目的地となる＝集客型、飯田に来ているので楽しみたい＝受け皿型)
- ⑥ 外部の目を通した滞在プログラムの磨きあげ
- ⑦ リポートを育てるコンテンツの検討
- ⑧ 価格検討や決定
- ⑨ 流通、プロモーション計画立案（発地と着地別）
- ⑩ 実施、評価

(6) プロモーション戦略の検討方法

- ① アプローチ方法
 - ・ パブリシティ（イベント含む）
 - ・ 広告宣伝（パンフレット等）
 - ・ 販売促進（旅行会社等）
- ② アプローチ対象
 - ・ 消費者向け
 - ・ 流通向け
 - ・ 観光関連事業者向け（発地での集客力を持つ旅行会社とのコラボレーション、旅行商談会等）
 - ・ メディア向け（情報発信力を有するメディアの活用とアプローチ）
 - ・ SNS（消費者自身の情報発信による情報共有、つまり「口コミ」を間接的なプロ

モーションの手段として取り込む)

③ 媒体特性

- ・ インターネット（自由に変更可能な点でコスト的に有利）
- ・ チラシ、ポスター等

④ 対象エリア

- ・ 発地にむけたもの（大手旅行会社のツアー商品への組み込みの提案など）
- ・ 着地（飯田市内）で実施するもの（飯田市に到着してから情報収集する旅行者も多いので、宿泊施設のホームページでの発信の他、旅行商品の販売拠点となり得る観光施設等と連携し発信する）

（7）自然環境やコミュニティに負荷をかけない観光の取組事例等

例1 「桜守の旅」では、「桜守ガイド」と一緒に歩く体制があるため、地域の自然や歴史文化を学ぶ教育的付加価値を旅行者に提供するとともに、桜の踏み荒らしを防ぎ、住民の生活圏に影響を与えない等の環境保全につなげている。

また、桜守ガイドの案内料金に桜の保全資金を加え、次世代まで桜を残す保存活動につなげている。

例2 伝統芸能を、地元ガイドと一緒に見学する体制づくりにより、伝統芸能やそれを育む地域全体への理解を深め、地元住民だからこそその案内や体験という付加価値を創り出すことができる。

例3 地域が主体的に旅行者の動線をマネジメントとする2次交通は、観光地域としてのよいイメージをつくりながら、旅行者の利便性を向上させつつ、生活圏や自然環境を守ることになる。また、経済効果による雇用創出や、乗り物自体も観光資源になるなどの効果が期待できる。

以上